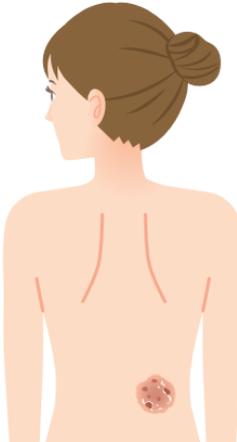


ずっと治らない湿疹が背中にあります
ポーエン病の疑いがあります
中野皮膚科クリニック
<http://www.nakano-derma.com/>

背中やお腹に赤茶色で境界がはっきりしたシミのような皮膚ができます。



「紫外線の影響が指摘されていますが、はっきりとした因果関係は分かっています。多発する場合は井戸水を飲む習慣から起こるヒ素中毒、陰部などにできた場合はヒトパピローマウイルス感染が原因とされています」

赤茶色のだ円形で、湿疹などに似た症状を持つポーエン病について、日本皮膚科学会認定皮膚科専門医、中野皮膚科クリニック院長の松尾光馬先生に聞きました。

「どんな病気ですか？」
「ポーエン病は皮膚の浅いところのできる皮膚がんの一種です。60歳以上で多く、おなかや背中などの体幹部や手足、陰部などに発症します。痛みやかゆみもなく、見た目に似て、赤茶色で少し盛り上がりがあります。表面はカサブタが付着して、5〜10cm程度まで徐々に大きくなります。表皮内ガンなのでそこに留まっていれば転移しませんが、3〜10%の割合で真皮層まで浸食して有棘(ゆうきょく)細胞がんになる可能性があります。そうなるまで遠隔転移の可能性も」

「原因は何ですか？」
「まずポーエン病の可能性を考えた場合、生検をして診断します。鑑別度が高い病変から5mm程度離して切除します。ポーエン病であれば転移をしないので、腫瘍を残さず切り取れば問題ありません。」

「痛みやかゆみの症状がなく、見た目は湿疹などに似ているため、市販の薬をつけて対処されていることも多くみられますが、治りにくく症状が続く場合は、ポーエン病の可能性も考えて皮膚科を受診してみましょう」

中野皮膚科クリニック
(マルニビル5階)



問い合わせ
中野皮膚科クリニック
中野区中野2-30-3、マルニビル5階。中野駅南口徒歩2分
☎03-5342-0722

診療受付時間	月	火	水	木	金	土
9:30 ~ 13:00	○	○	○	○	○	12:00 まで受付
15:00 ~ 18:30	○	○	○	○	○	—

休診日:日曜、祝日

院長:松尾光馬 日本皮膚科学会認定皮膚科専門医、医学博士。東京慈恵会医科大学医学部卒業、同大附属病院皮膚科非常勤講師